

## ▶ パネルディスカッション1 (公募)

### 「切除不能胆道癌に対する conversion surgery 症例の検討」

司会： 村上 義昭 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科外科)  
大塚 将之 (千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科)  
石井 浩 (千葉県がんセンター消化器内科)

切除不能胆道癌は、局所進行切除不能胆道癌と遠隔転移を伴う切除不能胆道癌に分類されるが、本邦ではこれらの症例は主に gemcitabine、cisplatin、S-1 を用いた化学療法による治療が第一選択である。最近、これらの治療の腫瘍縮小効果により、腫瘍と血管との接触が解除された症例、遠隔転移が消失した症例に対し、外科的切除 (conversion surgery) が行われ、conversion surgery 施行症例の中には長期生存例の報告も散見されるようになった。しかし、切除不能局所進行とはどのような症例を指すのか、conversion surgery を目指すにはどのような化学療法 regimen が有効か、どのくらいの化学療法施行期間が必要か、どのような症例に対して conversion surgery が有用かなど解決すべき問題点は多い。本パネルディスカッションでは、各施設の conversion surgery 症例の化学療法 regimen、切除基準、長期成績などを提示していただき、切除不能胆道癌に対する conversion surgery の課題と展望について討論をお願いしたい。

## ▶ パネルディスカッション1 (公募)

### 「乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除と経十二指腸的乳頭切除の適応と成績」

司会： 五十嵐良典 (東邦大学医療センター大森病院消化器内科)  
平野 聡 (北海道大学医学研究院消化器外科学教室 II)

近年、十二指腸乳頭の腺腫あるいは腺腫内癌に対する内視鏡的乳頭切除 (EP) が多くの施設で施行されるようになり、その普及率の高まりから、まもなく「EP 診療ガイドライン」が発刊されるまでとなった。しかし、EP 後の膵炎・出血・穿孔などの早期偶発症や乳頭狭窄などの晩期合併症に対する予防法や発生時の対処法、あるいは切除後の遺残・再発に対する治療方針は施設間で大きな差があるのが現状である。また、癌を疑う病変に対する total biopsy として EP を実施し、病理診断に基づいて必要な症例のみに膵頭十二指腸切除術を選択する治療戦略も存在するが、いまだコンセンサスがない状態である。

一方で、外科手術としての経十二指腸的乳頭部切除術 (TDP) も EP を導入していない施設を中心に実施されている。その切除範囲可能範囲は EP とは異なると考えられるが、胆管・膵管進展例に対する切除限界について詳細な検討は行われていない。また、その短期および長期の合併症についても EP 施行例と比較検討すべき時期にあると思われる。

本シンポジウムでは、EP および TDP 施行症例をその短期・長期成績を含めて提示いただき、それぞれのメリット・デメリットの比較から、内科・外科の垣根を越え、十二指腸乳頭部腫瘍に対する総合的治療戦略について大いに討議していただきたい。

## ▶ パネルディスカッション2 (公募・一部指定)

### 「胆管・肝浸潤を伴う (cT3) 胆嚢癌の根治を目指した診断・治療戦略」

司会： 植木 敏晴 (福岡大学筑紫病院消化器内科)  
江畑 智希 (名古屋大学大学院腫瘍外科学)

胆嚢癌はその進展様式や病期により多彩な治療が行われ、その多様性が特徴である。このため画一的な診断・治療アプローチを確立しにくい癌腫である。今回は、切除適応の境界に位置し、臨床的対応が標準化されていないと考えられる肝、胆管、十二指腸などの周辺臓器に直接浸潤する (clinical T3) 胆嚢癌に焦点を絞って議論を深めたい。cT3 胆嚢癌に潜む問題として、肝浸潤の診断や至適な肝切除範囲、胆管浸潤範囲の診断や胆管生検の正診率、胆管浸潤例に対する切除適応や至適術式、十二指腸浸潤例への対応や、術前化学療法の適応などが考えられる。これに限らず、自由な発想に基づく幅広い演題を募集し、また他の主題演題に重複する内容でも許容したい。胆道学会ならではの内科と外科のクロストークを通して問題解決に迫り、会員諸氏の臨床判断の一助となることを期待している。

